

《リスクアセスメントの規格と実践》

平成 26 年 3 月 12 日(水)開催

技術災害と自然災害が絶えない現状において、産業分野におけるリスクアセスメント(リスクマネジメントを構成する分野)の重要性と有用性は、広く受け入れられつつあります。リスクアセスメントの目的は、ハザード(危険源)を同定し、リスクの低減を図ることにあります。(一社)日本高圧力技術協会はメンテナンスにいち早く、リスクアセスメントを導入し、リスクベースメンテナンス規格を制定し、さらにリスクマネジメント技術者認証を実施して参りました。産業分野における技術の主は、設計と製造(運転)であり、メンテナンス(保全)は、従と考えられます。しかし、設計と製造(運転)を対象として、リスクアセスメントの適用は、広く受け入れられておりません。

平成 25 年 5 月に JIS B 9700:2013「機械類の安全性—設計のための一般原則—リスクアセスメント及びリスク低減」(ISO12100) が制定され、これを機会に、産業分野の多くにおいて設計と製造(運転)を対象としたリスクアセスメントの規格の制定と実践が、飛躍的に進行することが期待されています。

一方では、最近、わずか 10 ヶ月の間にコンビナート(高圧ガス、危険物)における爆発死亡事故が 3 件発生しました。3 件の事故調査において、運転のリスクアセスメントの実行と対応がなかったことが指摘されています。

このような現状を踏まえて、「リスクアセスメントの規格と実践」のセミナーを開催し、産業界にリスクアセスメントの技術情報を提供することとしました。多くの方にご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

■■プログラム■■

10:00 ～ 11:00	① ISO12100 (リスクアセスメント及びリスク低減) を始めとする機械安全国際規格の動向 梅崎 重夫 (労働安全衛生総合研究所) 欧州では、“人は誤り機械は故障やトラブルを起こす”ことを前提に安全技術の構築をすすめてきた。この技術は、現在 ISO12100 (リスクアセスメント及びリスク低減)として構築されている。本講演では、この規格の背景と具体的内容、及び労働安全分野への影響などについて簡潔に述べる。
11:10 ～ 12:40	② 最近の重大事故とリスクアセスメント 小林 英男 (東京工業大学 名誉教授) 最近、わずか 10 ヶ月の間に、コンビナートにおいて、① 塩ビモノマー製造施設 ② レゾルシン製造施設 ③ アクリル酸製造施設の 3 件の爆発死亡事故が発生した。 3 件の事故に共通する技術的因子として、以下の 3 つを抽出した。 ① 非定常運転 (作業) ② 反応制御 ③ 設備と能力の変更 3 つの技術的要因に対して、リスクアセスメントの実行と対処の検討が不十分であった。具体的に、事故 (事後) のリスクアセスメントによるハザードの特定の結果と、事前のリスクアセスメントの必要性を示す。
13:30 ～ 14:30	③ 都市ガス事業の保安に関するリスクマネジメント手法について 下茂 貴博 (日本ガス協会) 全国 209 の都市ガス事業者は、約 2900 万戸のお客さまにガスを安全に安定して安価にお届けする使命を担っております。更なる安全性を追究し、都市ガス業界では平成 23 年度から「ガス保安リスクマネジメント」を導入 (平成 19～21 年度の経済産業省委託事業の成果)。今回はその概要、活用例についてご紹介致します。
14:40 ～ 15:40	④ 石油コンビナートの防災アセスメント 山瀬 敏郎 (消防科学総合センター) 石油コンビナートを有する都道府県は、事故・災害に対処するための防災計画の策定が義務付けられています。防災計画には災害の想定が不可欠であり、そのために消防庁は「防災アセスメント指針」を提示しています。これは、コンビナートに存在するタンクやプラントでの災害発生頻度や影響度を推定し、リスクマトリックスを作成して想定すべき災害を抽出しようというものです。今回はその内容について解説します。
15:50 ～ 16:50	⑤ 化学プラントのリスクアセスメント 高木 伸夫 (システム安全研究所) 近年のコンビナートにおける重大事故を受けて、リスクアセスメントにより化学プラントに内在する危険源を洗い出すことの重要性が再認識されている。化学プラントのリスクアセスメントは、潜在的な危険源が事故として表面化した時の影響の大きさとその起こり易さを組み合わせてリスクを算定することが基本となるが、ここではリスクアセスメントの基本手順と各種の危険源の特定手法を解説する。

■開催要領■

開 催 日： 平成 26 年 3 月 12 日（水）

会 場： LMJ 東京研修センター 2 階特大会議室

地図 <http://www.lmj-japan.co.jp/kaigishitu/08-1/>

定 員： 80 名

主 催： 一般社団法人 日本高圧力技術協会

協 賛 団 体： 高圧ガス保安協会、(一社)日本非破壊検査協会、(一社)日本機械学会、(公社)石油学会、
(公社)化学工学会、石油連盟、(一社)日本鉄鋼協会、日本高圧力学会、(一社)日本溶接協会、
特定非営利活動法人安全工学会、石油化学工業協会、(一社)日本原子力学会、
(一財)日本規格協会、危険物保安技術協会、(公社)腐食防食学会、(公社)日本材料学会、
(一社)溶接学会、(一社)日本ガス協会、(公財)溶接接合工学振興会、
(一財)発電設備技術検査協会、(一財)エンジニアリング協会、(一社)火力原子力発電技術協会
日本 LP ガス協会 (順不同)

■参加費（テキスト代、昼食代含）■

会 員： 30,000 円（消費税込）

『会 員』対象は以下の通りです。

①ご所属先が当協会の団体会員企業の方

[団体会員名簿一覧表.pdf](#)

②当協会の個人会員としてご登録いただいている方

③ご所属先が、本セミナーの協賛団体の会員として登録されている方

※上記 ■開催要領■の『協賛団体』をご参照ください。

非 会 員： 35,000 円（消費税込）

■お申込み要領■

① 参加申込書に必要事項をご記入の上、E-mail 又は FAX、または当協会 HP より

<http://www.hpij.org/event/> 平成 26 年 3 月 7 日（金）までにお申込みください。

② 参加申込書を受領後、1 週間以内に請求書をお送りします。

参加費は開催日前日までに、請求書の郵便口座、又は銀行口座へお振り込みください。

参加費のお振り込み後の、返却には応じられませんので、ご了承ください。

③ 受講券は、開催日の 2 週間前にメールでお送りします。

④ テキストは、セミナー当日、受付にてお渡しします。

⑤ ご不明な点は、セミナー事務局（一社）日本高圧力技術協会 田中夕香子までお問い合わせください。

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町 1-11 産報佐久間ビル 5 階

TEL/FAX 03-3255-3486/3488 E-mail tanaka@hpij.org URL <http://www.hpij.org/>

参加申込書は次のページです！！

(一社)日本高圧力技術協会 技術セミナー参加申込書

各項目をご記入の上、E-mail 又は FAX にてお申し込みをお願い致します。

E-mail: tanaka@hpij.org FAX:03-3255-3488

セミナー名	リスクアセスメントの規格と実践 (平成 26 年 3 月 12 日開催)	
フリガナ 参加者名	①	E-mail アドレス
	②	E-mail アドレス
	③	E-mail アドレス
	④	E-mail アドレス
参加者種別	(□にチェックを入れて下さい) <input type="checkbox"/> 個人会員 <input type="checkbox"/> 団体会員 <input type="checkbox"/> 協賛団体会員(協賛団体名)	
勤務先 ご所属先名		
勤務先住所	〒	
TEL/FAX		
参加費種別	□にチェックを入れて下さい <input type="checkbox"/> 会員価格 30,000 円(消費税込) <input type="checkbox"/> 非会員価格 35,000 円(消費税込) ※会員価格は、当協会の団体会員、個人会員、及び本セミナーの協賛団体の会員に適用されます。	
振込み予定日	月 日	
備考		

当協会ではお客様の個人情報の取扱いについては、プライバシーポリシーを定め適切に管理を行います。
詳細についてはホームページ (<http://www.hpij.org/about/>)をご覧ください。